

第19回あの森を訪ねて

「魚付き林を見に 真鶴岬へ」



第19回「あの森を訪ねて」は、真鶴半島を訪ねることにした。

コースは、[真鶴駅](#)—[石工先祖碑](#)—[町役場](#)—[真鶴小学校](#)—[真鶴港](#)—[しとどの窟](#)—[海岸遊歩道](#)—[お林](#)—[中川](#)—[政記念館](#)。距離は、約6 kmである。歩けば素晴らしい景観と旧跡などがあるところ。

はじめに

真鶴岬は半島というには少々小さいが、今から約18万年前の箱根外輪山を構成する、白石溶岩や本小松溶岩、真鶴溶岩から成っている。

半島に広がる真鶴町は、石材業や漁業で成立ち、「しとどの窟」そして「お林」の森などがある所。「お林」は美林50選の中でも県下一の美林と称される。

岩専祖畑道（いわせんぞはたみち）

平成7年発行の「神奈川県古道50選」に載っている。小松石は、安山岩で空隙が少なく堅いのが特徴である。

石は、石の素質や多量に採れること、需要地が近い等に加え、運搬に便利なところが選ばれた。小松石の最盛期は、江戸城修築の時代で、西相模から伊豆半島の地が選ばれ、1606年から約30年間にわたって行われた。

御三家の水戸、尾張、紀伊のほか福岡藩等の参加もあった。この小松

石の搬出ルートは、どのような道筋で港まで運んだのか、辿ってみることにした。地形・地質は違っても、それなりの道があるのだろう。

ルートを歩く

真鶴駅を出てしばらく歩く。

町の中には、11箇所の道祖神が祀られている。疫病退散や豊漁の願いが込められているとのこと。

このうち、「石曳き」の道は3つの道祖神に沿って行くのだろう。



石工先祖の碑

細い道の先、立派な小松石の重厚な碑が建っている。平安末期の乱を避けて、岩村で石材業を始めた土屋格衛などの石工先祖の碑。

石工先祖の碑から、急な下りの小松石の階段が続いたところに、「大下の道祖神」と町役場。



大下の道祖神

そこから、さらに下ると平たいところの「丸山の道祖神」となる。道祖神からここまでは下り坂。大きなスーパーがある。

ここからが上り坂。真鶴小学校の裏手まで続く。これは大変だ。どうやって小松石を運んだらうか。「エンヤコリヤ サッサ！」と声を合わせて運んだのだろうか。

真鶴小学校の裏手からは小松石を採った山々が、かなたに見える。小学校から少し行ったところに「東の道祖神」。ならんだ地蔵が人々の幸せを祈っているのだろうか。

ここからは下り道。細い道を行くと、「自泉院」の墓地の向こうに港が見えてくる。



港へ下る細い道

ここまでくれば、あと一息である。そして、港から江戸に向かって船出したのだろう。上りと下り、大変だっただろう。

県の歴史博物館で開催された「神奈川の歴史を彩った石の文化」展にも、「石曳図」は少ない。

しとどの窟と貴船神社

港の一角に「しとどの窟」がある。1180年の石橋山の戦いに敗れた源頼朝が隠れて、岩海岸から房州に逃れたところ。



しとどの窟

江戸時代の「新編相模風土紀行」には、窟の様子が描かれているが、今は小さい。

その後の、関東大震災の隆起や昭和17年の追浜飛行場の工事用石に利用されたとのこと。削り取られたようだ。前のバス道路などは、後からつくられたもの。

貴船神社はほどなく。108段の小松石の階段を上ると拝殿。

7月の27・28日の海に乗り出す祭礼は、国の重要無形民族文化財に指定され、漁業や石材回漕を生業とする人達の守り神となっている。

真鶴遊歩道

神社を出ると海岸遊歩道となっている。遊歩道からは、先ほどの岬から、小田原、二宮、平塚と続く海岸線の町並みが美しい。遊歩道の壁面は、小松石の見事なもの。まさに小



小松石の壁が続く遊歩道

松石の産地という感じである。

町の特徴である漁業は、明治43年の「鰺の定置編」を設置したことなどにより、これが近傍の浜に広がった。今でも、アジ、サバ、カマス、ワラサ等がとれる。



岩漁港の漁船の往来

港から、10kmほど先にいくと1000mの深い海が広がっているとのこと。琴ヶ浜に近付くと、目の

前に鬱蒼たる樹林が見えてくる。マツの木がクスノキ等の梢を抜けだして、空に飛び出している。

帝室御料林

17世紀中ごろ、小田原藩の支配下のもと、萱原だった岬に、3カ年で松苗15万本の植樹を実施した。その後の植林等も含め33haを御留山（お林）として、立ち入りを禁止した。明治維新後には、帝室御料林となり、戦後の1961年には国有林となった。

町は国有林以外の岬の開発を見込んでいたこともあり、1951年に633万円余で、町有林として購入した。

1954年には、県立公園に指定されるなど、公園の一体整備がなされることにつながっていった。

魚付き林について

県下で唯一の魚付き林、まさに岬の先端にある林である。

古来より、森林の働きとして、水源涵養の「水持ち山」、飛砂防止の「砂止め山」、魚を寄せる「魚付き林」などがある。



魚つき保安林の標柱

魚付き林は、流れ出すミネラル等によるプランクトンの増殖、樹木による陰影効果、それに水質を清浄にする等の効果が考えられる。

これらが、定置網の漁業にも影響を与えているのだろう。

魚付き林に入る

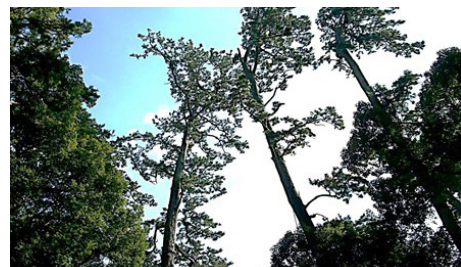
琴ヶ浜から緩い上り道。お林に入ったようだ。1mはあろうかという太い幹のクスノキやマツが見えて

くる。途中に、佐佐木信綱の歌碑がある。「真鶴の林しづかに海の色さやけき見つつわが心清し」。圧倒的なくらいの樹林と青い海を詠んだのだろう。

岬入口から、小さなお堂の脇を通り灯明山へのぼる。

いたるところにクスノキやマツ、スダジイ、タブノキ等の木々が繁り、混然一体となり、鬱蒼たる森林となっている。

クスノキは圧倒的な大きさである。クスノキもマツも、かつて植林されたもの。



高さを競うように並び立つマツ

クスノキは、マツのように樹齢350年を超えるものはないが、お林の中で大成を占めている。

林内はシロダモ、トベラ、イヌビワ、アオキなどのほか草本植物など、多彩な種類からなっている。

長い年月を生き延びてきた、畏敬の念を感じざるを得ない。

一旦道路に出て、駐車場からケープ真鶴をめざす。三ツ石海岸を望む。小松石の彫り物などを見て暫く休み。お林遊歩道を行くと、こちらにもスダジイやクスノキや高い樹高のマツの立ちならび、途中に小鳥の家などがあるが、鳥は見えない。

下り坂になると、ほどなく、真鶴のアトリエに移り住んだ、中川一政美術館となる。

真鶴駅へは、バスは14時30分過ぎと、15時30分過ぎがある。

(2021年10月 瀧澤)